サステナビリティビジョン2030 2022年度取組み状況

全社的な取組み

2022年度はコロナ禍に加え不安定な世界情勢などから、社会・経済・環境などの様々な分野において多くの課題が顕著となり、また、実際、「SDGs」に対する認知は9割を超えるという調査結果※も出ているなど、より持続可能な世の中の実現に対する生活者の皆さまの意識向上が見られた1年となりました。その中において、DINOS CORPORATIONとして2年目、ディノス51周年目と、節目の年から新たな一歩を踏み出した当社は、お客様とともに"よりたのしいくらし"を創造・共有し、様々な社会・環境課題に取組み、持続可能な未来の実現に貢献しながら企業としての成長を目指すため、当社コミットメント「サステナビリティビジョン 2030」を推進いたしました(※2023年2月実施、電通「第6回『SDGsに関する生活者調査』」より)。

•当社コーポレートガバナンス体制の一部としてのサステナビリティ委員会

同ビジョン実現に向けた推進体制として、社内にサステナビリティ委員会を設置しています。同委員会は代表取締役をはじめ役員を含むメンバーで構成され、マテリアリティに基づく重点領域を中心として、サステナビリティに関する全体計画の立案、進捗状況の把握、達成状況の評価等を行っています。また、同委員会には4つの分科会(商品・用紙・温室効果ガス・人事ダイバー)も設置し、それぞれの分野において様々な取組みを進めています。

•ダイバーシティ&インクルージョンに関する各種外部評価の獲得

当社ではダイバーシティ&インクルージョンに関する取組みを積極的に進めていますが、2022年度はそれらに対する様々な外部評価を獲得しました(厚生労働省「えるぼし認定」最高位3つ星、work with Pride実行委員会「PRIDE指標2022」最高位ゴールド認定、「D&I Award 2022」最高位ベストワークプレイス。詳細は本レポートP13)。

•日本製紙とカタログ古紙の「クローズ・ド・ループ」によるリサイクルスキームを開始

「サステナビリティビジョン2030」において「責任ある紙の使用」を掲げる当社では、かねてよりカタログ用紙調達先である日本製紙株式会社と連携し、カタログ古紙を新たなカタログ用紙としてサステナブルに活用するスキームをスタートしました(詳細は本レポートP16)。

•新入社員サステナビリティ研修など社内向けコミュニケーション推進

社内においてより一層、「SDGs」「サステナビリティ」や当社ビジョン等への理解向上を目指し、新入社員を対象としたサステナビリティコミュニケーションを考える研修プログラムをはじめ、ビジネスのヒントとするためのウェビナー・ワークショップ等を開催。その他、各種情報発信やe-ラーニングの実施など、サステナビリティに関する様々な社内コミュニケーションを積極的に行っています。